

始めにお読みください

Allied Telesis



CentreCOM®

AR300/AR300L

Access Router

リリースノート

Release 1.7.2 Pl.4



0 本書について

この度は、CentreCOM AR300/AR300L をご購入いただきまことにありがとうございます。本書は、本製品に付属している他のマニュアルの内容を補足するもので、以下の事項をご説明しています。

1 本書について.....	2
2 付属マニュアルについて.....	2
3 付属 CD-ROM の内容.....	3
4 Adobe Acrobat Reader 3.0J について.....	4
インストール方法.....	4
電子マニュアルの読み方.....	4
5 AR300L の制限.....	5
6 AR300 のアナログポートに関する制限.....	5
7 10BASE-T ストレート・ISDN 接続ケーブルについて.....	5
8 ハードウェアとファームウェアの組合せ.....	5
9 取扱説明書の訂正.....	6
P147 の 10 行目 (ISDN 登録件数).....	6
P147 の 20 行目 (フレームリレー DLC (PVC) 数).....	6
10 ファームウェアの変更点.....	6
Ver.1.7.2 Pl.4.....	6
Ver.1.7.2 Pl.0.....	7
Ver.1.6.0 Pl.3 以前の変更.....	8

1 付属マニュアルについて

本製品には、製品をご利用いただくために、以下のマニュアルをご用意しています。それぞれの内容についてご紹介します。

リリースノート (Rel.1.7.2 Pl.4)
本書です。

取扱説明書

安全にご利用いただくためのご注意、各部の名称や働き、設置、起動から終了、コマンドの入力のしかた、ルーターとして動作させるための最も基本的な設定例、アナログ機器の使用方法についてご説明しています。

簡単セットアップ「Easy Configure」

付属ソフトウェア「Easy Configure」をご利用いただくためのガイドブックです。特に、インターネットサービスプロバイダ（ISP）への接続の場合は、「取扱説明書」で本製品の接続の仕方やネットワークの構成についてお読みになり、本書に進むのが簡単です。

Configuration Example

具体的なネットワークの構成例を示しつつ、数多くの設定例を記載しています。このマニュアルは、電子マニュアル（PDF 形式）として付属の CD-ROM に収録されています。

Command Reference

コマンドの詳細、エラーメッセージを説明した英文の電子マニュアルです。各プロトコルのしくみについても記載しています。このマニュアルは、電子マニュアル（PDF 形式）として付属の CD-ROM に収録されています。

2 付属 CD-ROM の内容

付属の CD-ROM は、MS-DOS、Windows98/95、WindowsNT でご利用いただけます。CD-ROM の内容は、次のとおりです。

DOCS フォルダ

Command Reference 電子マニュアルをはじめ、付属のマニュアル類を収録しています。これらのマニュアル類をお読みいただくには、アドビシステムズ社の「Acrobat Reader 3.0J」が必要です。

- ・ ¥DOCS¥M0270C.PDF 「リリースノート Rev.C」を PDF 化したもの。
- ・ ¥DOCS¥M0271C.PDF 付属の「取扱説明書 Rev.C」を PDF 化したもの。
- ・ ¥DOCS¥M0273B.PDF 付属の「簡単セットアップ（Easy Configure）Rev.B」を PDF 化したもの。
- ・ ¥DOCS¥ComRef¥INDEX.PDF 「Command Reference Rev.B」の PDF。¹
- ・ ¥DOCS¥ConfEx¥INDEX.PDF 「Configuration Examples Rev.B」の PDF。²
- ・ ¥DOCS¥M281801A.PDF Ver.1.6.0 Pl.3 までのファームウェアの修正履歴の PDF。

-
1. この電子マニュアルは印刷物として別売しておりません。印刷物が必要な場合は、Acrobat Reader 3.0J を利用し、ご使用のプリンターから印刷してご使用ください（「3 Adobe Acrobat Reader 3.0J について」(p.4) をご覧ください）。
 2. このマニュアルは、Ver.1.6.0 Pl.3 以前のリリースにおける「User Guide Rev.A」を改版した内容となっています。この電子マニュアルは印刷物として別売しておりません。印刷物が必要な場合は、Acrobat Reader 3.0J を利用し、ご使用のプリンターから印刷してご使用ください（「3 Adobe Acrobat Reader 3.0J について」(p.4) をご覧ください）。

ECONFIG フォルダ

Windows 98/95 または Windows NT 4.0 で使用できるルーター設定ソフトウェア「Easy Configure」を収録しています。

ACROREAD フォルダ

電子マニュアルを読むためのソフト「Acrobat Reader 3.0J (Windows 95 および Windows NT 版)」を収録しています。

3 Adobe Acrobat Reader 3.0J について

ご使用のコンピュータに「日本語版 3.0 以上の Acrobat Reader」がインストールされていない場合は、下記のインストールを実行してください。付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れ、DOCS フォルダの PDF ファイルをダブルクリックしたとき、PDF ファイルが表示されれば、すでに「日本語版 3.0 以上の Acrobat Reader」はインストールされていますので、下記の実行は不要です。

インストール方法

1. 付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。
2. 「スタート」 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
3. 「ファイル名を指定して実行」ダイアログの「名前」フィールドに、下記のファイル名を入力し、[OK] ボタンをクリックします（以下は、CD-ROM ドライブを D ドライブと仮定しています）。

D:¥acroread¥setup.exe

4. インストーラが表示する指示に従って、インストールを実行してください。

電子マニュアルの読み方

1. 付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。
2. CD-ROM の「DOCS」フォルダを開きます。
3. PDF ファイルのアイコンをダブルクリックしてください。Command Reference をお読みになる場合は「ComRef」フォルダの「INDEX.PDF」をダブルクリックしてください。Configuration Examples をお読みになる場合は「ConfEx」フォルダの「INDEX.PDF」をダブルクリックしてください。

4 AR300L の制限

CentreCOM AR300L は、CentreCOM AR300 からアナログポートを取り除いた仕様となっております。AR300L には、別冊「取扱説明書」のアナログポートに関する取り扱い、および各マニュアルに記載のアナログポートに関連するコマンドは適用できませんので、あらかじめご了承ください。

5 AR300 のアナログポートに関する制限

本製品は、極性反転機能をサポートしていません。このため、この機能を利用した電話機や FAX などでは誤動作する場合があります（電話機、FAX の仕様については、各メーカーへお問い合わせください）。また、LCR 機能をご利用の場合、LCR 機能そのものはお使いいただけますが、料金表示されない場合があります。

アナログポートの転送、保留機能をご利用の際に、転送途中または保留中は、お待たせしている相手に保留音が鳴りません。無音状態になりますが、故障ではございません。

6 10BASE-T ストレート・ISDN 接続ケーブルについて

本製品には、「10BASE-T ストレートケーブル」、「ISDN 接続ケーブル」の2種類のケーブルが付属しておりますが、これらは非常によく似ています。間違えないようにご使用ください。間違えてご使用になった場合、通信できないなどの障害が発生します。

10BASE-T ストレートケーブル

ケーブルの両端に赤テープの目印が付いています。本製品とハブ（コンピュータ）の接続にご使用ください。

ISDN 接続ケーブル

ケーブルに目印がついていません。本製品と DSU の接続にご使用ください。

7 ハードウェアとファームウェアの組合せ

ハードウェア Rev.6E 以降の AR300、ハードウェア Rev.C3 以降の AR300L で Ver.1.7.2 Pl.0 以前のファームウェアを使用しないでください。これらのハードウェア Rev. のもとで Ver.1.7.2 Pl.0 以前のファームウェアを使用すると、前面パネルの LINK ランプが点灯しません。

8 取扱説明書の訂正

「CentreCOM AR300/AR300L・取扱説明書 (J613-M0271-00 Rev.C)」の「A.1 製品仕様・ソフトウェア」の記載に誤りがございますので、ここに訂正しお詫び申し上げます。

P147 の 10 行目 (ISDN 登録件数)

誤 ISDN 相手先登録件数 (32件)

正 ISDN 相手先登録件数 (16件)

P147 の 20 行目 (フレームリレー DLC (PVC) 数)

誤 フレームリレー DLC (PVC) 数
250 (国内での上限は通常32)

正 フレームリレー DLC (PVC) 数
32 (スタティックルートのみ使用可能)

9 ファームウェアの変更点

Ver.1.7.2 Pl.4

ファームウェア Ver. 1.7.2 Pl.0 から Ver. 1.7.2 Pl.4 へのパッチレベルアップにより下記の変更が行われました。

AR300L の sysObjectID の変更

Ver.1.6.0.Pl3 以前の sysObjectID (MIB-II MIB 内)は、AR300 と同一の「1.3.6.1.4. 1.207.1.1.8」でしたが、Ver.1.7.2 Pl.4 から AR300L を「1.3.6.1.4.1.207.1.1.12」に仕様変更しました。Ver.1.7.2 Pl.4 からは AR300/AR300L でそれぞれ異なる sysObjectID を持ちます。

バグフィクス

- ・ 本製品を DHCP Server として設定しているとき、Unnumbered IP の PPP インターフェースが作成されていると、DHCP クライアントがネットワーク情報を取得できない問題を改修しました。

- ・マルチホーミングにおいて複数の論理インターフェースを設定するとき、「0-0」の番号のものを作成せずに（例えば ETH0-0）、「0-1」「0-2」「0-3」のように作成し、さらに RIP を併用した場合にリポートする問題を改修しました。
- ・ MacOS (J1-8.1) で AppleTalk を使用するとゾーン名が取得できない問題を改修しました。
- ・ Host Resources MIB 内の hrSystemDate が 2000 年を正しく表示しない問題を改修しました。
- ・ Ver.1.7.2 Pl.0 における AR300L の sysObjectID の不正な値「0.0」を「1.3.6.1.4.1.207.1.1.12」に改修しました（改修するとともに仕様変更を行いましたので前述の「AR300L の sysObjectID の変更」(p.6) の項目もご覧ください）。
- ・ BACP を使用する場合、BAP Call-Request パケットの送信で Link-Type を指定せず（Link-Type=0x00）に送信していましたが、Link-Type を指定（Link Type=0x01）し送信するように改修しました。
- ・ Emailの送信機能においてメールヘッダのデータ形式を RFC822 に準拠した形式に改修しました。
- ・ 「add log out=1 all」を設定し「create config=filename.cfg」で保存した後、本製品をリポートするとエラーメッセージが表示され、「add log out=1 all」が設定に反映されない問題を改修しました。
- ・ IP-Helper 設定時に、WAN 側から「Directed-Broadcast Packet」を受信すると、本製品がリポートしてしまう問題を改修しました。

Ver.1.7.2 Pl.0

ファームウェア Ver. 1.6.0 Pl.3 から Ver. 1.7.2 Pl.0 へのバージョンアップにより、下記の機能追加、変更が行われました。

IPsec (IP security)

共通秘密鍵暗号 DES (56bit) でパケットを暗号化する IPsec が追加されました。第三者によるデータの盗聴を不可能にするセキュリティの高い通信が可能となります。暗号化、複合化は、ハードウェア (暗号カード CentreCOM AR010) で行うため、本製品本体の通信パフォーマンスを下げません (AR010 は、本製品に装着した状態でのみ購入できます) 。

L2TP

PPP のデータリンク層 (第 2 層) のデータをトンネリングするプロトコル L2TP をサポートしました (the Internet Draft " Layer Two Tunneling Protocol L2TP ", revision 12, October 1998) 。 L2TP によりトンネリングしながら、データリンク層を暗号化することも可能です。

RSVP

ネットワーク・リソース (ネットワークの帯域幅) を予約するプロトコル RSVP が実装されました。RSVP をサポートするセンダー、レシーバー間のデータフローを中継します。実時間に沿ったデータグラム転送を要求するアプリケーションに対応したギャランティード・クオリティサービス (RFC2212) の提供が可能です。RSVP 上で IP Multicasting (RFC1112, RFC1812 準拠) が使用可能です。RSVP Proxy Agent を実装しており、ネットワーク上に RSVP に対応したホ

ストが存在しなくても、本製品がセンター、レシーバーの代理をすることで、擬似的な RSVP ネットワークが構築可能です。

BAP (Bandwidth Allocation Protocol) /BACP (Bandwidth Allocation Control Protocol) RFC 2125 のサポートにより、マルチリンクバンドル内でトラフィックに基づく帯域幅制御が可能となりました。

SMTP (送信のみ)

SMTP (RFC821 準拠) プロトコルを実装しました。ログメッセージやテキストファイルを指定した宛先にメールで送信することが可能です。本製品の管理やセキュリティ情報の収集に利用することがききます。

B-channel Reserve

ダイヤルアップ回線使用時に、AR300 のリソース (データ / 音声) を ISDN の各 B チャンネルに固定で割り当てる機能を追加しました。ネットワーク・システム上でデータと音声の優先的な使い分けが可能です。

バグフィクス

- ・トリガー実行時間として「23:00」または「00:00」を指定したとき、トリガーが正常に実行されないという障害を改修しました。
- ・「PURGE USER」コマンドを実行すると、Manager アカウントが削除されてしまい、本製品の再起動時にコンソールからログインできなくなってしまうという障害を改修しました。

Ver.1.6.0 Pl.3 以前の変更

CD-ROM に収録の「¥DOCS¥M281801A.PDF」をご覧ください。

ご注意

1. 本マニュアルは、アライドテレシス株式会社が作成したもので、全ての権利をアライドテレシス株式会社が保有しています。本書の全部または一部を弊社の同意なしにコピーまたは転載することを固くお断りいたします。
2. アライドテレシス株式会社は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。
3. アライドテレシス株式会社は、改良のため予告なく製品の仕様を変更することがありますのでご了承ください。
4. 本マニュアルについて、万一記載漏れ、誤りやご不審な点等ございましたらご連絡ください。
5. 本製品を運用して発生した結果については、2、3、4項にかかわらず、責任を負いかねますのでご了承ください。

©1997, 1999 アライドテレシス株式会社

©1997, 1999 Allied Telesyn International Corporation

商標について

CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。

Apple、AppleTalk、Macintosh は、米国 Apple Computer, Inc. の商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の登録商標です。Novell、IPX、SPX、IPX/SPX は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Windows、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

マニュアルバージョン

1998年08月28日	Rev.B	第2版 (Firmware Ver. 1.6.0 Pl.2)
1999年04月19日	Rev.C	第3版 (Firmware Ver. 1.7.2 Pl.0)
1999年09月16日	Rev.D	第4版 (Firmware Ver. 1.7.2 Pl.4)

